

平成30年度公益財団法人偕行社事業計画書

〔平成30年4月1日〕平成31年3月31日〕

1 方針

当法人は、中期的な展望に立つて継続的に組織及び事業全般を見直すとともに、新たな視点で各種事業を推進する。この際、29年度事業の成果を著実に拡充して安定・充実した会務運営基盤を維持するとともに、各地偕行会との連携の強化に努め、更に外部への発信活動を促進する。

2 主要考慮事項

- (1) 将来検討委員会の検討内容の深化を図り、中期的な視点で逐次年度事業計画に反映させる。(新)
- (2) 各種事業の実施に当たり、次の事項に留意する。
 - ア 各地偕行会との連携特に協力体制を更に強化するとともに、関係友好団体との連携に留意しつつ、各地偕行会の活動基盤の充実を支援する。
 - イ 各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携(活性化)を積極的に推進する。

- (3) 引き続き元幹部自衛官の入会促進を重視し、各地偕行会の協力を得て

部内出身等元幹部自衛官会員数の増加を図るとともに、現職幹部自衛官の会員加入に関する検討を深める。

この際、会員の維持管理施策を並行的に推進し、全国的継承基盤を拡充する。加えて、家族会員及び賛助会員の入会促進に努力する。法人会員の入会促進については、各地所在の企業・賛同者等に積極的に働きかける。

- (4) 部外研究者・協力団体研究員等と連携して、安全保障・近現代史・教育問題の研究内容を深めるとともに、防衛諸団体との協同による政策提言の実施に努力する。また、各委員会及び研究員の部外に対する積極的な意見発表を助長し、もって国民・政治家への啓蒙活動を推進する。
- (5) 会員数・会費収入・資産運用収入等の見通しを踏まえ、安定かつ充実した会務運営ができる方策を推進する。
- (6) 引き続き、旧弘前偕行社の保存修理事業を支援する。

*3年目(継続事業)

3 主要実施事項

(1) 公益目的事業

ア 慰霊・援護事業

- (ア) 4・10月を除く第3水曜日(9月は第4水曜日、平成31年3月は第2水曜日)に、靖國神社・千鳥ヶ淵戦没者墓苑・自衛隊殉職者慰霊碑に対する月例参拝を実施する。

- (イ) 市ヶ谷台慰霊祭を11月上旬に実施する。この際努めて元自会員の参加を促す。

- (ウ) 靖國神社・各地護國神社の例大祭及び政府や協力団体の行う慰霊・顕彰事業に積極的に参加・協賛する。

- (エ) 各地偕行会と連携し、殉職自衛隊員追悼行事への協力、並びに英霊の顕彰策について検討する。また、自衛隊遺族の援護のため防衛弘済会の行う援護基金活動に協力する。

- (オ) 各地偕行会が行う、地元に散在する戦没者慰霊碑等の調査に協力する。

- (カ) 戦没者遺骨収集法に基づく事業に関わる関係団体の活動に、協力する。

- (キ) 靖國神社の国家護持について、研究を継続する。
- 安全保障に関する研究及び発表

- (ク) 「東アジア情勢の急展開と日本の防衛を考える」ことをテーマとして研究し、東アジア情勢の変化と今後の中露の動向を分析し、米国外交政策や日本の安全保障戦略上の課題を明らかにする。その成果を隔月の研究発表会(講座)を通じて、啓蒙活動を推進する。この際、安全保障委員会の意見として必要がある場合には、偕行社提言として発表することを考慮する。

- (イ) 部外有識者・協力団体研究員等との研究交流を一層深め、研究内容の深化及び充実を図る。

- (ウ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。研究員の優れた研究発表については、つとめて「偕行」への投稿を進め、更に一般誌等への推薦・紹介を行う。

- (エ) 年度計画による隔月の研究発表会(講座)においては、聴講者との意見交換を重視するが、更に発表会終了後、研究員による自由討議の時間を設け、切磋琢磨し研究内容を深める。

- (オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に近現代史研究委員会と共同して、研究員

夏季セミナーを実施する。

* 確認実施要領の検討（宿泊を伴うセミナーとその効果について）。

(カ) 第10回シンポジウム(31年3月)では、東アジア情勢の変化を受けた日本の防衛上の課題を議論し、その解決策特に、陸上自衛隊の課題と対策を発信する。公表テーマについては、8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。

(キ) 国内外の情勢変化に応じて、必要な場合には臨時研究発表会（講座）を実施する。

(ク) 政策提言及び入会促進等に資するため、防衛政策等、特に自衛官及び元自衛官の処遇に関する研究を行う。

○ 平成30年度安全保障講座実施予定表……………別紙第1（略）

ウ 近現代史に関する調査・研究及び発表

(ア) 平成30年度は、明治維新以降の日韓関係に着目する。現在における日韓関係の不協和状態に鑑み、明治期以降における日韓関係を歴史的に回顧してその真相を解明し、日韓不協和の根源を探るとともに、将来の日韓関係の在り方を展望する。

(イ) 発表にあたっては、部外の研究・メディア機関と協力して東京裁判

史観の払拭に努力するとともに、外国への発信について配慮する。

(ウ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。

(エ) 年度計画による隔月の研究発表会においては、聴講者との意見交換を重視するとともに、発表会終了後、研究員による自由討議を行い、研究内容を深める。

(オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に安全保障委員会と共同して、研究員夏季セミナーを実施する。

(カ) 日韓関係の歴史に造詣の深い学者による特別講演会を、12月に計画する。（新）

(キ) 第10回シンポジウム(31年2月)では、「日韓関係の歴史と両国不協和の真相を探る（仮題）」を公表テーマとし、8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。

(ク) 引き続き旧軍・自衛隊草創期の資料を収集するとともに、偕行社に寄せられるマスコミ・軍事研究者・部外者からの質問・調査依頼について、可能な限り協力する。

○ 平成30年度近現代史研究講座予定表……………別紙第2（略）

エ 教育問題の研究

(ア) 平成30年度から小学校、31年度から中学校において、道徳教育が「特別の教科道徳」として正式に実施されることに鑑み、道徳の検証の一環として軍人が体現した道徳の事例について引き続き研究する。

(イ) 教育問題について、識者の講演等を適時行い、委員等の識見等の向上を図る。

(ウ) 研究成果を適時、『偕行』誌上を通じてその普及を図る。

(エ) 部外組織との連携に努める。

オ 自衛隊に対する協力

(ア) 自衛隊の行う国際平和協力活動・災害派遣等の活動に対し、自衛隊関係機関及び関係友好団体と連携して激励・協力活動に参加・協賛する。この際、各地偕行会との連携に留意する。

(ア) 平成30年度から小学校、31年度から中学校において、道徳教育が「特別の教科道徳」として正式に実施されることに鑑み、道徳の検証の一環として軍人が体現した道徳の事例について引き続き研究する。

(イ) 教育問題について、識者の講演等を適時行い、委員等の識見等の向上を図る。

(ウ) 研究成果を適時、『偕行』誌上を通じてその普及を図る。

(エ) 部外組織との連携に努める。

オ 自衛隊に対する協力

(ア) 自衛隊の行う国際平和協力活動・災害派遣等の活動に対し、自衛隊関係機関及び関係友好団体と連携して激励・協力活動に参加・協賛する。この際、各地偕行会との連携に留意する。

(イ) 国の安全保障に関する自衛隊の幹部教育を、他の防衛協力団体と連携を図りつつ、講師派遣等で支援するとともに、啓蒙活動を促進する。

* 2年目（既に隊友会等実施中）

(ウ) 陸自幹部候補生学校との連携、特に卒業式への参加等各種行事に協力するとともに、陸自幹部学校学生及び防衛大学校学生（追加）との交流を深めることに留意す

る。

(エ) 部隊等の記念式典に参加又は祝電を処置する。

カ 定期刊行誌『偕行』の発行

(ア) 偕行社の公益広報誌の性格を重視し、会員の研究論説、シンポジウムや研究会等の報告、部外研究者の記事や協力団体の論文との交換掲載、一般マスコミとは別の観点から自衛隊の活動周知等、幅広い内容で類似誌とは異なる広報媒体であるように努める。この際、各種の会員に配慮した内容構成に留意する。

(イ) 別冊「花だより」・「つどい」編纂と相まって、全国に居住する会員の親睦と結束、会員の入会促進に資する広報誌として、内容の魅力化に努める。このため、「各地偕行会だより」の充実に努める。また、「偕行現代考」を企画継続して、現代風潮に対する会員の意見を掲載することにより、会員による投稿意欲の向上を図る。

(ウ) 誌面に余裕のある時は、古いバックナンバーの記事で現在の読者に参考となるような軍事史再録も行う。

(エ) 部外有識者、公立図書館、陸自の各部隊・機関の長及び地方協力本部長等に寄贈するほか、会員以

外にも積極的に販売する。
キ 広報活動

(ア) 『偕行』及びホームページを主要手段として、防衛基盤の強化・拡充に資する対外広報を重視して広報する。特に、安全保障・近代史の研究成果及びシンポジウム成果の発表に留意する。

(イ) 『偕行』の誌面を補完するホームページの活用に留意する。

(ウ) ホームページの内容を適時に更新するとともに、魅力化に努める。

(エ) ホームページを補完するためのフェースブックを最大限に活用する。

(オ) メールマガジンの活用による積極的な情報発信のため、登録者数の増加を推進する。

(カ) 陸自幹部自衛官に対し、偕行社を広報するため、修親会の機関誌『修親』に広告を掲載する。

(キ) 広報用パンフレットを経年変化に応じて更新するとともに、広報用カレンダーを作成・配布する。

(新)

(2) 元幹部自衛官等の入会促進

ア 元幹部自衛官の当面の目標体制を5,000名以上とする。

イ 入会促進特別委員会におけるB・U出身若年期委員及び部内出身委員の充実を図るとともに、拡大入会促

進特別委員会の実施等により各地偕行会・入会促進特別協力委員との連携を強化する。もって元幹部自衛官等の入会促進を図るとともに、全国の入会促進基盤を強化する。

ウ 引き続き定年前幹部自衛官の偕行社に対する理解を深め、事後の入会促進に資するため、小平学校業務管理集合教育学生の偕行社訪問研修及び各方面総監部が実施する業務管理集合教育において「偕行社についての説明会」を実施する。

エ 幹部候補生学校卒業後40周年記念行事の機会(本年は78期)を活用した入会促進業務を推進する。(新)

(3) 厚生活動
ア 談話室と会議室の有効利用及び利用者への便宜を図るため、厚生委員会は積極的に改善意見を提出して事務局に協力する。

イ 第9回文化祭(芸能発表を含む)を、11月上旬に実施する。

ウ 偕行社の文化的な伝統を継承しつつ、会員の福利厚生活動を充実するため、偕行社文化・スポーツ活動を拡充・促進する。この際、自衛隊及び部外の活動との連携・協同を進める。

エ 各地偕行会及び自衛隊各駐屯地と連携し、偕行社の美術展示を促進する。

(2) (1) 4 主要会議等(一部検討事項あり)
総 会…… 30年10月12日(金)
全国偕行会会長会同
…………… 30年10月11日(木)

(4) 会館の運営

ア 『偕行』やホームページを活用するとともに、呼びかけ等積極的な集客努力を継続する等、昨年度に引き続き、あらゆる方面からの情報収集・意見聴取を行い、集客及び接客に関する改善策を追求する。

イ 公益目的事業利用率の拡大・人件費の抑制・管理経費の節減を図る等会館の財政健全化に努める。

ウ 会館運営のあり方について、事務局は、引き続き厚生委員会の協力を得て新しい視点で創意と改善努力を傾注する。

(5) 出版物の販売
ア 『偕行』及び『雄叫』の部外販売箇所の拡大に努めるとともに、引き続き販売を促進する。

イ 全国陸軍墓地の調査結果である冊子『陸軍墓地』の頒布を引き続き推進する。

ウ 偕行社と日本郷友連盟との共同著書『憲法改正提言と各国の憲法』『国防なき憲法』への警告の部外販売箇所の拡大と頒布を、引き続き促進する。

(3) 評議員会

……………(定時) 30年6月9日(土)
……………(臨時) 31年3月9日(土)
…(その他必要の都度臨時に実施)
理事会
通常3ヵ月ごとに実施
30年5月24日(木)
30年9月13日(木)
30年12月13日(木)
31年2月14日(木)

(5) ……(その他必要の都度臨時に実施)業務連絡会議
……………通常毎月1回(第2木曜日、理事会時は理事会終了後)
各委員会
毎月又は2〜3ヵ月ごとに実施。

(6) ……通常毎月1回(第2木曜日、理事会時は理事会終了後)
各委員会
毎月又は2〜3ヵ月ごとに実施。

元幹部自衛官と旧陸軍将校の会

公益財団法人

